

Oracle® Universal Content Management

Site Studio インストレーション・ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.4)

部品番号 : B50383-01

2008 年 7 月

Oracle Universal Content Management Site Studio インストール・ガイド, 10g リリース 3
(10.1.3.3.4)

部品番号 : B50383-01

原本名 : Oracle Universal Content Management Site Studio Installation Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.4)

原著者 : Sean Cearley

原協力者 : Brian Cheyne

Copyright © 1996, 2008, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	iii
対象読者	iv
関連ドキュメント	iv
表記規則	iv
サポートおよびサービス	iv
1 概要	
1.1 システム要件	1-2
1.1.1 Site Studio コンポーネントの要件	1-2
1.1.2 デザイナ・アプリケーションの要件	1-3
1.1.3 マネージャ・アプリケーションの要件	1-3
1.1.4 コントリビュータ・アプリケーションの要件	1-3
1.2 インストール・プロセス	1-3
1.3 ドキュメント	1-4
2 Site Studio コンポーネントのインストール	
2.1 インストール前の作業と考慮事項	2-2
2.2 以前のコンポーネントのアンインストール	2-2
2.3 新しいコンポーネントのインストールと有効化	2-3
2.4 インストール後の作業と考慮事項	2-4
2.4.1 IIS のための ISAPI フィルタのチェック	2-5
2.4.2 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定	2-6
2.4.3 Apache Web サーバーの構成	2-6
2.4.4 Sun ONE Web サーバーの構成	2-7
2.4.5 SServletPlugin ファイルの更新	2-8
2.4.6 ゾーン・フィールドの構成	2-8
2.4.7 コンテンツ・サーバーでの JavaServer Pages の有効化	2-9
2.4.8 コンテンツ・サーバーでの Active Server Pages の構成	2-10
2.4.9 クラスタ化コンテンツ・サーバー環境での Active Server Pages の構成	2-10
2.5 コンテンツ・サーバー索引の再作成	2-12
2.6 Web サーバーの再起動	2-12
3 デザイナのインストール	
3.1 システム要件	3-2
3.2 デザイナのインストール	3-2
3.3 デザイナの起動	3-2

4 コントリビュータの設定

4.1	システム要件	4-2
4.2	コントリビュータについて	4-2
4.3	コントリビュータの起動	4-2

5 考慮事項のインストール

5.1	Site Studio メタデータ・フィールド	5-2
5.1.1	Websites	5-2
5.1.2	Website Section	5-2
5.1.3	Website Object Type	5-3
5.1.4	Exclude From Lists	5-3
5.2	コントリビュータのデフォルト・ショートカット・キーの変更	5-4
5.3	消費サーバーのアクセス禁止	5-4

6 Site Studio のアンインストール

6.1	デザイナのアンインストール	6-2
6.2	Site Studio コンポーネントのアンインストール	6-2

7 Web サイトのアップグレード

7.1	はじめに	7-2
7.2	自動アップグレードの処理内容	7-2
7.3	コンテンツ・サーバーのアップグレード	7-3
7.3.1	1つのコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード	7-3
7.3.2	複数のコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード	7-3
7.3.3	完全アップグレードの実行	7-5
7.3.4	最小アップグレードの実行	7-7
7.4	その他の手順の手動実行	7-8
7.4.1	サイト・ナビゲーションの更新	7-8
7.4.2	コンテンツ・サーバー索引の再作成	7-8
7.4.3	カスタム・フラグメントの更新	7-8
7.4.3.1	<base> タグに依存するリンクの変更	7-8
7.4.3.2	SS_GET_PAGE の JavaScript による従来のリンクの変更	7-9
7.4.3.3	GET_SEARCH_RESULTS の更新	7-9
7.4.4	カスタム要素の更新	7-11
7.4.5	フォルダへの Website Section の割当て	7-12
7.4.6	JSP コードの更新	7-12

索引

はじめに

Site Studio インストレーション・ガイドには、Site Studio 環境の設定を担当する管理者を支援する情報が記載されています。このガイドでは、導入情報、構成内容およびインストール手順について説明します。

対象読者

このドキュメントはシステム管理者を対象としています。Site Studio ソフトウェアのインストールおよび設定に特化した情報で構成されています。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle Site Studio ドキュメント・セットの次のドキュメントを参照してください (1-4 ページの「ドキュメント」も参照)。

- 『Oracle Site Studio Tutorial Setup Guide』
- 『Oracle Site Studio Tutorial』
- 『Oracle Site Studio Contributor Guide』
- 『Oracle Site Studio Designer Guide』
- 『Oracle Site Studio Manager Guide』
- 『Oracle Site Studio Technical Reference Guide』
- 『Oracle Site Studio リリース・ノート』

表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック体	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキストまたは入力するテキストを示します。

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>
<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、**Oracle Corporation** が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

1

概要

Oracle Site Studio は、Web サイトの設計、構築およびメンテナンスのために、Oracle Content Server とともに使用します。Content Server は、Web サイトを格納および管理するための中心的なリポジトリです。Site Studio は、Content Server と緊密に結合し、Idoc スクリプト、メタデータ属性、セキュリティ、ワークフローといった、Content Server の多くの組み込みサービスを利用します。

Site Studio を初めてインストールして構成する場合に必要なすべての情報は、この項で説明しています。

- [1-2 ページの「システム要件」](#)
- [1-3 ページの「インストール・プロセス」](#)
- [1-4 ページの「ドキュメント」](#)

Site Studio リリース 7.2 以下からアップグレードしている場合は、[第 7 章「Web サイトのアップグレード」](#)を参照してください。ここでは、製品の以前のバージョンで作成したすべての Web サイトをアップグレードする方法について説明されています。これは、Site Studio リリース 7.5 以上 (10gR3 も含む) で、現在のリリースにも継続されるアーキテクチャの重要な変更が行われているため必要です。

1.1 システム要件

Site Studio は、次のように 1 つの Content Server コンポーネントと 3 つのアプリケーションで構成されており、それぞれに独自のシステム要件があります。

- 1-2 ページの「[Site Studio コンポーネントの要件](#)」
- 1-3 ページの「[デザイナー・アプリケーションの要件](#)」
- 1-3 ページの「[マネージャ・アプリケーションの要件](#)」
- 1-3 ページの「[コントリビュータ・アプリケーションの要件](#)」

1.1.1 Site Studio コンポーネントの要件

Site Studio コンポーネントの Content Server の要件は次のとおりです。

- CS10gR3CoreUpdate パッチおよび CS10gR3NativeUpdate パッチを適用した CS 10gR3。これらのパッチがコンテンツ・サーバーにインストールされていない場合には、Oracle Metalink (<http://metalink.oracle.com>) から入手できます。
- CS752Update パッチを適用した CS 7.5.2。このパッチがコンテンツ・サーバーにインストールされていない場合には、Oracle Metalink (<http://metalink.oracle.com>) から入手できます。

注意： コンテンツ・サーバーは全文検索および索引付けに対応するように設定されている必要があります。手順は、Content Server のインストールेशन・ドキュメントを参照してください。

Site Studio は次のような他の多くの Content Server アドオンと連動して機能します。

- **Dynamic Converter** は、Web サイトで使用されるネイティブ・ドキュメントを変換します。
- **Check Out and Open** を使用すると、コントリビュータが Site Studio からコンテンツ・サーバーのネイティブ・ドキュメントをチェックアウトして、編集のために開くことができます。
- **Content Tracker および Content Tracker Reports** を使用すると、コントリビュータは、サイトのファイルの表示回数やファイルを表示したユーザーを示すサイト・レポートを確認できます。

どのアドオンを使用する場合も、コンポーネントのバージョンとコンテンツ・サーバーのバージョンに互換性がある必要があります。(これらのコンポーネントの詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください。)

コンテンツ・サーバーに初めて Site Studio コンポーネントをインストールするときは、索引を再作成する必要があります (2-12 ページの「[コンテンツ・サーバー索引の再作成](#)」を参照)。

Content Server の Folders 機能は Site Studio では必要ありません。ただし、リリース 7.2 以下からアップグレードする場合は、フォルダベース・サイトからプロジェクトベース・サイトにアップグレードするために Folders 機能を有効にする必要があります。サイトをアップグレードした後でフォルダを無効にできます (フォルダを利用する Check Out and Open を使用しない場合)。サイトで継続してフォルダを使用する場合は、追加するコンテンツがサイトの一部として認識されるように、異なるメタデータをフォルダに割り当てる必要があります。

1.1.2 デザイナ・アプリケーションの要件

Site Studio デザイナ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 2000、Windows XP または Windows Vista オペレーティング・システム。
- Site Studio コンポーネントを実行しているコンテンツ・サーバーへのアクセス。
- Microsoft Internet Explorer 5.5 以上。(作成した Web ページの表示には、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上を使用できます。)
- 800 × 600 以上の VGA ディスプレイ。推奨: 256 色以上のカラー・ディスプレイ。

1.1.3 マネージャ・アプリケーションの要件

Site Studio マネージャ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Site Studio コンポーネントを実行しているコンテンツ・サーバーへのアクセス。
- Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上。
- 800 × 600 以上の VGA ディスプレイ。推奨: 256 色以上のカラー・ディスプレイ。

1.1.4 コントリビュータ・アプリケーションの要件

Site Studio コントリビュータ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Internet Explorer 6.0 以上または Firefox 2.0 以上を実行可能なオペレーティング・システム (例: Microsoft Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Linux、Mac OS X)。
- Site Studio コンポーネントを実行しているコンテンツ・サーバーへのアクセス。
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上または Firefox 2.0 以上。作成した Web ページを表示するには、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上が必要です。
- Java Virtual Machine (JVM) 1.5。
- 800 × 600 以上の VGA ディスプレイ。推奨: 256 色以上のカラー・ディスプレイ。

1.2 インストール・プロセス

Site Studio をインストールおよび設定する手順は次のとおりです。

1. Content Server が全文索引に対応するように設定されており、DBSearchContainsOpSupport コンポーネントがインストールされていることを確認します。手順は、Content Server のインストレーション・ガイドを参照してください。
2. Site Studio コンポーネントをアップロードしてコンテンツ・サーバー上で有効にします。詳細は、第 2 章「Site Studio コンポーネントのインストール」を参照してください。
3. Web サイトの作成と設計に使用するマシンに**デザイナー・アプリケーション**をインストールします。詳細は、第 3 章「デザイナーのインストール」を参照してください。

すべてを同じマシンにインストールすることもできますが、コンテンツ・サーバー (およびコンポーネント) のために専用サーバーを 1 つ使用し、投稿用に複数のマシンを使用することをお勧めします。

1.3 ドキュメント

Oracle Site Studio に関して、次のドキュメントを入手できます。

ドキュメント	入手方法
リリース・ノート	Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF ファイル。
インストール・ガイド	デザイナのインストール・ディレクトリの Documentation フォルダ、および Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF ファイル。
『Designer Guide』	Site Studio デザイナ・アプリケーションの「Help」メニューおよび「Help」ダイアログ・ボタン。 デザイナのインストール・ディレクトリの Documentation フォルダ、および Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF（ドキュメントの印刷に便利）。
『Manager Guide』	Site Studio マネージャ・アプリケーションの「Help」リンク（Content Server ユーザー・インタフェース内）。 デザイナのインストール・ディレクトリの Documentation フォルダ、および Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF（ドキュメントの印刷に便利）。
『Contributor Guide』	Site Studio コントリビュータ・アプリケーションの「Help」リンク。 デザイナのインストール・ディレクトリの Documentation フォルダ、および Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF（ドキュメントの印刷に便利）。
『Technical Reference Guide』	デザイナのインストール・ディレクトリの Documentation フォルダ、および Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの PDF ファイル。
『Tutorial Setup』	Site Studio ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの Documentation/RVH_Tutorial フォルダの PDF ファイル。
『Tutorial』	ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの Documentation/RVH_Tutorial フォルダの PDF ファイル。

Site Studio コンポーネントのインストール

Site Studio コンポーネントはコンテンツ・サーバーにインストールします。このプロセスは次のとおりです。

- 2-2 ページの「[インストール前の作業と考慮事項](#)」
- 2-2 ページの「[以前のコンポーネントのアンインストール](#)」
- 2-3 ページの「[新しいコンポーネントのインストールと有効化](#)」
- 2-4 ページの「[インストール後の作業と考慮事項](#)」
- 2-12 ページの「[コンテンツ・サーバー索引の再作成](#)」
- 2-12 ページの「[Web サーバーの再起動](#)」

2.1 インストール前の作業と考慮事項

Site Studio コンポーネントをインストールする前に、次のことを確認してください。

- 必要なソフトウェア・パッチがコンテンツ・サーバーにインストールされていること。詳細は、1-2 ページの「[Site Studio コンポーネントの要件](#)」を参照してください。
- コンテンツ・サーバーが全文索引対応に設定されており、DBSearchContainsOpSupport コンポーネントがインストールされていること。手順は、Content Server のインストール・ガイドを参照してください。
- コンテンツ・サーバーが Site Studio コンポーネントのシステム要件をすべて満たしていること。詳細は、1-2 ページの「[Site Studio コンポーネントの要件](#)」を参照してください。
- 以前のバージョンの Site Studio からアップグレードする場合は、以前のコンポーネントがアンインストールされていること。詳細は、2-2 ページの「[以前のコンポーネントのアンインストール](#)」を参照してください。

2.2 以前のコンポーネントのアンインストール

以前のバージョンの Site Studio からアップグレードする場合は、新しいコンポーネントをインストールする前に、以前のコンポーネントをアンインストールする必要があります。

1. 新しいブラウザ・ウィンドウを開き、システム管理者（sysmanager ロール）として Content Server にログインします。
2. 「Administration Applets」ページに移動して、「Admin Server」リンクをクリックします。
3. 「Content Admin Server」ページで、Site Studio コンポーネントをアンインストールするコンテンツ・サーバー・インスタンスのボタンをクリックします。
コンテンツ・サーバー・インスタンスのステータス・ページが表示されます。
4. サーバー・インスタンスのオプション・リストで、「Component Manager」リンクをクリックします。
「Component Manager」ページが表示されます。
5. 「Enabled Components」の下の「SiteStudio」を選択します。
6. 「Disable」をクリックします。
7. コンテンツ・サーバーを再起動します。
8. 「Install Components」の下の「SiteStudio」を選択します。
9. 「Uninstall」をクリックします。
10. コンテンツ・サーバーを再起動します。

2.3 新しいコンポーネントのインストールと有効化

Site Studio コンポーネントをインストールして有効化するには、次のようにします。

1. 新しいブラウザ・ウィンドウを開き、システム管理者（sysmanager ロール）として Content Server にログインします。
2. 「Administration Applets」 ページに移動して、「Admin Server」 リンクをクリックします。
3. 「Content Admin Server」 ページで、Site Studio コンポーネントをインストールするコンテンツ・サーバー・インスタンスのボタンをクリックします。
選択したコンテンツ・サーバー・インスタンスのステータス・ページが表示されます。
4. サーバー・インスタンスのオプション・リストで、「Component Manager」 リンクをクリックします。
「Component Manager」 ページが表示されます。
5. 「Install New Component」 フィールドの横の「Browse」 ボタンをクリックします。
6. ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの Component ディレクトリにある Site Studio コンポーネントの zip ファイルにナビゲートして、ファイルを選択し、ファイル選択ダイアログを閉じます。
7. 「Install」 をクリックします。
概要ページにインストールされるアイテムのリストが表示されます。
8. 「Continue」 をクリックします。
「Install Settings」 ページが表示されます。
9. フラグメント・ライブラリ、カスタム・プロパティ、カスタム要素およびカスタム検証についてコンテンツ・タイプを選択します。
10. Web サイトのセクションの名前に使用する初期値を入力します。この値は、Web サイトのノード（セクション）に一意の ID を作成するために使用されます。1つのコンテンツ・サーバーにコンポーネントをインストールする場合は、デフォルトを使用することができます。複数のコンテンツ・サーバーにコンポーネントをインストールする場合は、格納されるサーバーごとに Web サイトを区別するために、異なる初期値を使用することをお勧めします。
11. 「Continue」 をクリックします。
これで必要なすべてのファイルがアップロードされてインストールされます。
特にネットワーク・ドライブにインストールしている場合は、アップロードにしばらく時間がかかることがあります。進捗状況の表示はありません。
すべてのファイルがコピーされると、コンポーネントがアップロードされて正常にインストールされたことを知らせるメッセージが表示されます。
12. リンクをクリックしてコンポーネントを有効化し、サーバーを再起動します。
コンテンツ・サーバーのステータス・ページが表示されます。
13. 再起動アイコン（図 2-1）をクリックしてコンテンツ・サーバー・インスタンスを再起動します。

図 2-1 再起動アイコン



Site Studio の実行に必要なすべてのフラグメントとサンプル・ファイルは、インストール時にコンテンツ・サーバーに自動的にチェックインされます。Site Studio 固有の新しいメタデータ・フィールドもコンテンツ・サーバーに追加されます。

コンテンツ・サーバー・プロキシを使用してサイトを表示する予定がある場合は、コンテンツ・サーバーのマスター・インスタンスにもコンポーネントをインストールする必要があります。

2.4 インストール後の作業と考慮事項

新しい Site Studio コンポーネントをインストールした後で、次に示すインストール後の作業と考慮事項に注意する必要があります。

- Microsoft IIS を Web サーバーとして使用する場合は、Content Server の ISAPI フィルタを更新する必要があります。詳細は、2-5 ページの「[IIS のための ISAPI フィルタのチェック](#)」を参照してください。
- デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定を確認します。これは、プロジェクトベースの階層が機能するために必要です。詳細は、2-6 ページの「[デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定](#)」を参照してください。
- Apache を Web サーバーとして使用する場合は、Site Studio がパスベースの URL を処理できるようにサーバーを構成する必要があります。詳細は、2-6 ページの「[Apache Web サーバーの構成](#)」を参照してください。
- Sun ONE を Web サーバーとして使用する場合は、Web ID を NameTrans 構成エントリに含めるようにサーバーを構成する必要があります。詳細は、2-7 ページの「[Sun ONE Web サーバーの構成](#)」を参照してください。
- 場合によっては SSUrlMapPlugin ファイルを更新する必要があります。Site Studio コンポーネントのインストール時に SSUrlMapPlugin ファイルが置き換えられますが、特定の状況ではこのファイルを手動で更新する必要があります。詳細は、2-8 ページの「[SSUrlMapPlugin ファイルの更新](#)」を参照してください。
- Site Studio の一部のメタデータ・フィールドをゾーン・フィールドに指定し、それらを全文検索できるようにする必要があります。詳細は、2-8 ページの「[ゾーン・フィールドの構成](#)」を参照してください。
- JavaServer Pages を Site Studio で使用する場合は、コンテンツ・サーバーで JSP を有効にする必要があります。詳細は、2-9 ページの「[コンテンツ・サーバーでの JavaServer Pages の有効化](#)」を参照してください。
- Active Server Pages を Site Studio で使用する場合は、ASP のサポートを IIS で有効にし、相対パスを使用するようにサーバーを構成する必要があります。詳細は、2-10 ページの「[コンテンツ・サーバーでの Active Server Pages の構成](#)」（クラスタ化されていないコンテンツ・サーバー環境）または 2-10 ページの「[クラスタ化コンテンツ・サーバー環境での Active Server Pages の構成](#)」（クラスタ化環境）を参照してください。
- リリース 7.2 以下からアップグレードしている場合は、以前のバージョンで作成したすべての Web サイトをアップグレードする必要があります。詳細は、[第 7 章「Web サイトのアップグレード」](#)を参照してください。
- リリース 7.5 以上（10gR3 も含む）からアップグレードしている場合は、サイト・ナビゲーションを更新する必要があります。これは、Site Studio デザイナ・アプリケーションと、Content Server の「[Manage Web Sites](#)」ページで行うことができます。

重要： Site Studio を設定したら Web サーバーを再起動してください。

2.4.1 IIS のための ISAPI フィルタのチェック

Microsoft Internet Information Server (IIS) を Web サーバーとして使用する場合、ISAPI フィルタを更新する必要があります。これは、コンテンツ・サーバーのインストール時にデフォルト Web サーバーにインストールされています。IIS を使用しない場合、この項は必要ありません。

ISAPI フィルタのチェック

現行の ISAPI フィルタをチェックするには、次のようにします。

1. `[CS_Dir]\idcplg` ディレクトリ (`[CS_Dir]` はコンテンツ・サーバー・インスタンスのインストール・ディレクトリ) に移動します。
2. `idc_cgi_isapi-[Instance-Name].dll` ファイル (`[Instance-Name]` はコンテンツ・サーバー・インスタンス) のバージョンをチェックします。ファイルを右クリックして、「バージョン情報」タブでバージョン情報を確認します。次のような情報が表示されています。

5.1.1.92

ISAPI ファイルのバージョンが 5.1.1.62 以上の場合は、何もする必要はありません (ただし、必要であれば、ファイルを更新して最新バージョンを使用できます)。バージョンがこれよりも古い場合は、コンテンツ・サーバーの ISAPI フィルタを Site Studio で提供されるフィルタで置き換える必要があります。こうすることで、コンテンツ・サーバー上で Site Studio の Web サイトを実行できるようになります。

新しい ISAPI フィルタのインストール

新しい ISAPI フィルタをコンテンツ・サーバーにインストールするには、次のようにします。

1. コンテンツ・サーバーと Web サーバーを停止します。
2. 次の場所を参照して移動します。

`[CS_Dir]/custom/SiteStudio/support/win32`

SiteStudio フォルダは、Site Studio コンポーネントをインストールしたときに作成されません。

3. ファイル `idc_cgi_isapi.dll` の名前を `idc_cgi_isapi-[Instance-Name].dll` に変更します (`[Instance-Name]` はコンテンツ・サーバー・インスタンス名)。
4. このファイルを `[CS_Dir]\idcplg` ディレクトリにコピーして、既存の ISAPI フィルタ・ファイルを上書きします。
5. コンテンツ・サーバーと Web サーバーを再起動します。

注意: クラスタ環境では、クラスタ内の各サーバーに更新済の `idc_cgi_isapi-[Instance-Name].dll` ファイルが必要です。

2.4.2 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定

Site Studio で新しい Web サイトを作成すると、自動的に新しいプロジェクト・ファイルが作成され、コンテンツ・サーバーにチェックインされます。このため、Web サイトを作成する前に、新しいプロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータを指定する必要があります。これは、コンテンツ・サーバーの「Set Project Default Document Information」ページで行います。

Site Studio のプロジェクト・ファイルで使用されるデフォルト・メタデータを設定するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログインします。
2. 「Administration」ページに移動し、「Site Studio Administration」をクリックします。
「Site Studio Administration」ページが表示されます。
3. 「Set Default Project Document Information」をクリックします。
「Set Default Project Document Information」ページが表示されます。ここで、Site Studio で生成される新しいプロジェクトのためのデフォルト・メタデータを割り当てます。
4. 必要に応じてメタデータを設定し、終了したら「Update」をクリックします。
これで「Site Studio Administration」ページに戻ります。

2.4.3 Apache Web サーバーの構成

Apache Web サーバーを Web サーバーとして使用する場合は、パスベースの URL を Site Studio で利用できるように構成ファイルを更新する必要があります。Apache を Web サーバーとして使用しない場合、この項は必要ありません。

Apache Web サーバーの構成ファイルを編集するには、次のようにします。

1. Apache の httpd.conf 構成ファイルを開きます。これは、Apache をインストールした場所の conf ディレクトリにあります。
2. 次のようなエントリを検索します。

```
LoadModule IdcApacheAuth [CS_Dir]/shared/os/win32/lib/IdcApacheAuth2.dll
IdcUserDB myserver [CS_Dir]/data/users/userdb.txt
Alias /myserver "[CS_Dir]/weblayout"
<Location "/myserver">
    DirectoryIndex portal.htm
    IdcSecurity myserver
</Location>
```

注意： UNIX では LoadModule 行は IdcApacheAuth2 を参照しています。

3. 次の行を追加します。

```
<Location "/">
    IdcSecurity myserver
</Location>
```
4. 次に、UseCanonicalName 構成変数を検索して、**Off** に設定されていることを確認します。
5. 構成ファイルを保存して、Apache HTTP サーバーを再起動します。

注意

- すべての手順において、Content Server インスタンスの名前は **myserver** としています。Content Server に別の名前を付けている場合は、インスタンス名が変わります。たとえば、Content Server の名前が **cherokee** の場合、手順 3 は次のようになります。

```
<Location "/">
    IdcSecurity cherokee
</Location>
```

すべてのコード例で Content Server の名前として **myserver** を使用しています。

- Site Studio のドメインに基づくサイトを使用する場合は、<Location "/"> エントリ（手順 3）を使用する必要があります。
- <Location "/"> エントリ（手順 3）を使用しない場合は、サーバーが認識する必要のある Web サイトごとに個別のエントリを使用する必要があります。たとえば、2つのサイトがあり、アドレスがそれぞれ `http://<domain>/site1/index.htm` と `http://<domain>/site2/index.htm` の場合は、次のように 2つの Location エントリを設定できます。

```
<Location "/site1">
    IdcSecurity mysERVER
</Location>
<Location "/site2">
    IdcSecurity mysERVER
</Location>
```

Site Studio での Web サイト URL の変更の詳細は、『Site Studio Designer Guide』を参照してください。

2.4.4 Sun ONE Web サーバーの構成

Sun ONE Web サーバーを Web サーバーとして使用する場合は、ベースの URL を Site Studio で利用できるように構成ファイルを更新する必要があります。Sun ONE を Web サーバーとして使用しない場合、この項は必要ありません。

Sun ONE Web サーバーの構成ファイルを編集するには、次のようにします。

1. Sun Web サーバーのソフトウェア・ディレクトリに移動し、`https-[[host_name]]/config` サブディレクトリ（[[host_name] はソフトウェアがインストールされているシステムの名前）を開きます。次に例を示します。

```
/https-server7/config
```

2. ファイル `obj.conf` をテキスト・エディタで開きます。
3. <Object name="default"> セクションで、次のように Web ID を NameTrans エントリに追加します。

```
NameTrans fn="pfx2dir" from="/[Site_ID]" dir="[Weblayout_Dir]"
```

このとき、[[Site_ID] は Web サイトの Web ID（たとえば /Xalco）、[[Weblayout_Dir] は Web で表示可能なファイルのリポジトリ（たとえば、/ul/cserver/idcm1/weblayout）です。

4. `obj.conf` ファイルで変更した内容を、Web サーバーの管理ページで適用します。
5. Web サーバーを停止して再起動します。

2.4.5 SSUrlMapPlugin ファイルの更新

SSUrlMapPlugin は、Site Studio URL をマップするために使用される Web フィルタ・プラグインです。このファイルはコンポーネントのインストール時に自動的に更新されます。ただし、Microsoft Internet Information Server (IIS) を使用する際に、以前のバージョンの Site Studio からアップグレードしている場合は、このファイルを手動で更新する必要があります。通常、このファイルは、上書きできないように Microsoft IIS によってロックされています。

SSUrlMapPlugin ファイルを手動でインストールするには、次のようにします。

1. コンテンツ・サーバーと Web サーバーを停止します。
2. `[CS_Dir]\%custom%\SiteStudio\support\win32\SSUrlMapPlugin.dll` ファイルを `[CS_Dir]\%shared%\os%\win32\lib\%` ディレクトリにコピーします。
3. コンテンツ・サーバーと Web サーバーを起動します。

重要： コンテンツ・サーバーは、World Wide Web Publishing サービスよりも前に起動する必要があります。

注意： クラスタ環境に Site Studio をインストールするときは、クラスタ内の各サーバーでも SSUrlMapPlugin ファイルを手動で更新する必要があります。

2.4.6 ゾーン・フィールドの構成

Site Studio コンポーネントをインストールすると、4つのメタデータ・フィールドがコンテンツ・サーバーに追加されます。このうち一部のフィールドを、全文索引に対応できるようにゾーン・フィールドとして構成する必要があります。

重要： コンテンツ・サーバーが全文索引対応として設定されていることを確認します。手順は、Content Server のインストール・ガイドを参照してください。また、DBSearchContainsOpSupport コンポーネントがインストールされていることも確認します。Content Server ソフトウェアのインストール時にこのコンポーネントを選択しなかった場合は、後から手動でインストールできます（デフォルトではインストールされません）。コンポーネント ZIP ファイルは、Content Server ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの `packages/allplatform` ディレクトリにあります。

Site Studio のメタデータ・フィールドのゾーン・フィールドとしての構成

Site Studio のメタデータ・フィールドをゾーン・フィールドとして構成するには、次のようにします。

1. Content Server に管理者としてログインします。
2. コンテンツ・サーバーの「Administration」ページを開きます。
3. 「Zone Fields Configuration」をクリックします。
4. ゾーン・テキスト・フィールドとして「Web Sites」と「Exclude From Lists」を指定します。

これらのフィールドをゾーン・フィールドとして有効にした後で、検索索引を再作成する必要はありません。

Content Server 構成ファイルへの設定の追加

Content Server の構成ファイルに設定を追加するには、次のようにします。

1. 新しいブラウザ・ウィンドウを開き、システム管理者（sysmanager ロール）として Content Server にログインします。
2. 「Administration Applets」ページに移動して、「Admin Server」リンクをクリックします。
3. 「Content Admin Server」ページで、該当するコンテンツ・サーバー・インスタンスのボタンをクリックします。
選択したコンテンツ・サーバー・インスタンスのステータス・ページが表示されます。
4. サーバー・インスタンスのオプション・リストで、「General Configuration」リンクをクリックします。
「General Configuration」ページが表示されます。
5. ページの一番下までスクロールし、次の行を「Additional Configuration Variables」ボックスに追加します。
`SSUseUniversalQueryFormat=1`
6. 次の行を追加することもできます（オプション）。
`SSEnableDBSearchShortcut=1`
これにより、Site Studio デザイナおよびコントリビュータで実行される問合せのレスポンスが向上します。
7. 「Save」をクリックします。
8. コンテンツ・サーバーを再起動します。

2.4.7 コンテンツ・サーバーでの JavaServer Pages の有効化

JavaServer Pages を Site Studio で使用する予定がある場合は、コンテンツ・サーバーで JSP を有効にする必要があります。これにより、コンテンツ・サーバー上のコンテンツやサービス（個人情報、セキュリティ定義、定義済変数など）にアクセスして変更できるようになります。JavaServer Pages の有効化の詳細は、Content Server ドキュメント・セットに含まれる『Getting Started With the Software Developer's Kit (SDK) guide』を参照してください。

Site Studio コンポーネントを有効化した後で JSP グループを有効化する場合は、JSP フラグメントが正常に機能するように JSP サポートを構成する必要があります。

新しい JSP グループのための JSP サポートの構成

Site Studio コンポーネントをインストールしてから、コンテンツ・サーバーの JSP 対応グループのリストにグループを追加した場合、Site Studio の JSP フラグメントが正常に機能するには、そのグループのために JSP サポート・ファイルを再デプロイする必要があります。

JSP サポートを構成するには、次のようにします。

1. Content Server に管理者としてログオンします。
2. 「Administration」の下の「Site Studio Administration」をクリックします。
3. 「Manage Fragment Libraries」をクリックします。
4. 「Configure JSP Support」ボタンをクリックします。

JSP サポート・ファイルが、コンテンツ・サーバーの必要なディレクトリに抽出されます。

2.4.8 コンテンツ・サーバーでの Active Server Pages の構成

ASP サイトを Site Studio で作成する予定がある場合は、Studio Studio コンポーネントをインストールした後で次の作業を行う必要があります。

- IdcCommandUX コンポーネント (バージョン 7.0.0.7 以上) をコンテンツ・サーバーにインストールします。コンポーネント zip ファイルは、Content Server ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの %extras ディレクトリにあります。
- Microsoft Windows Server 2003 を使用する場合は、ASP サポートを有効にし、Site Studio が親パス (..%websites% など) を使用できるようにサーバーを構成します。(詳細は、Microsoft Internet Information Server ヘルプで「親パス」に関連するドキュメントを参照してください。)
- Microsoft Internet Information Server (IIS) の Websites フォルダで、スクリプトを実行してアプリケーション・オブジェクトを作成できるようにします。これを実行するには、次のようにします。
 1. 「コントロールパネル」で「管理ツール」を開き、「Internet Information Services」を開きます。
 2. Websites フォルダを右クリックし、「Properties」を選択します。
 3. 「Websites Properties」ダイアログ・ボックスの「Home Directory」タブで、「Execute Permissions」リストから「Scripts only」を選択します。
 4. 「Application name」テキスト・ボックスに websites と入力します。
 5. 「Apply」をクリックして「OK」をクリックします。
 6. IIS を再起動します。

2.4.9 クラスタ化コンテンツ・サーバー環境での Active Server Pages の構成

クラスタ化されていないコンテンツ・サーバー・インストールでは、ASP コードは、%weblayout%websites フォルダの global.asa ファイル内の変数を使用して、通信するコンテンツ・サーバー・プロセスを識別します。クラスタ化環境では、クラスタ内の各 Web サーバーは、同じサーバーで実行しているコンテンツ・サーバー・プロセスと通信します。ロード・バランスの仮想 IP アドレスを介して通信を再ルーティングすることはありません。この場合、共有の global.asa ファイルは適切ではありません。クラスタの各 Web サーバーが独自の global.asa ファイルを使用するように設定する必要があります。

クラスタ化コンテンツ・サーバー環境の Site Studio サイトで Active Server Pages を使用する予定がある場合は、コンポーネントをインストールした後で次の作業を行う必要があります。

1. クラスタの各 Web サーバーで、次のようにします。
 - IdcCommandUX コンポーネント (バージョン 7.0.0.7 以上) をコンテンツ・サーバーにインストールします。コンポーネント zip ファイルは、Content Server ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージの %extras ディレクトリにあります。
 - Microsoft Windows Server 2003 を使用する場合は、クラスタの各 Web サーバーで ASP サポートを有効にし、Site Studio が相対パス (..%websites% など) を使用できるようにサーバーを構成します。(詳細は、Microsoft Internet Information Server ヘルプで「親パス」に関連するドキュメントを参照してください。)
 - Microsoft Internet Information Server (IIS) の Websites フォルダまたはルート Web レイアウト・フォルダ (たとえば idcm1) に対して作成されたアプリケーション・オブジェクトがあれば削除し、ルート Web サーバーのアプリケーション・オブジェクトのみを残します。

2. クラスタの各 Web サーバーで、ルート Web サーバー・ディレクトリ（通常は `c:\inetpub\wwwroot`）にある `global.asa` ファイルを更新します。必要であればファイルを作成し、ファイルに次のメソッドが含まれるようにします。

```
<SCRIPT LANGUAGE=vbscript runat=server>
Sub Application_OnStart
Application("ssIdcReference") = "socket:SERVER:4444"
Application("ssIdcWebRoot") = "http://SERVER/idcm1/"
End Sub
</SCRIPT>
```

このスクリプトをクラスタの各 Web サーバーについて次のように変更します。

- `SERVER` を置き換える語は、クラスタ・ノードのインストール・プロセスで `ClusterNodeAddress` に値を指定したかどうかによって異なります。
- `ClusterNodeAddress` の値がある場合は、`SERVER` を置き換えるために同じ値を使用する必要があります。
- `ClusterNodeAddress` の値がない場合は、ノード（通常は `127.0.0.1` すなわち `localhost`）を示す任意の値で `SERVER` を置き換えることができます。マシンの名前や IP アドレスを使用することもできます。
- 例：`ClusterNodeAddress=10.20.30.40` と設定した場合（デフォルト・ポート `4444` を使用、相対 Web ルートが `idcm1`）

このとき `global.asa` ファイルは次のようになります。

```
<SCRIPT LANGUAGE=vbscript runat=server>
Sub Application_OnStart
Application("ssIdcReference") = "socket:10.20.30.40:4444"
Application("ssIdcWebRoot") = "http://10.20.30.40/idcm1/"
End Sub
</SCRIPT>
```

- `ClusterNodeAddress` を設定しない場合、`global.asa` は次のようになります。

```
<SCRIPT LANGUAGE=vbscript runat=server>
Sub Application_OnStart
Application("ssIdcReference") = "socket:127.0.0.1:4444"
Application("ssIdcWebRoot") = "http://127.0.0.1/idcm1/"
End Sub </SCRIPT>
```

- 必要であれば `idcm1` をインスタンス名で置き換えます。
 - 必要であれば `4444` を特定のポート番号で置き換えます。
3. IIS を再起動します。

2.5 コンテンツ・サーバー索引の再作成

初めて Site Studio をインストールする場合、または以前のバージョンからアップグレードする場合は、コンポーネントを有効にしてコンテンツ・サーバーを構成した後で、コンテンツ・サーバーの索引を再作成する必要があります。

この手順は、Site Studio によって導入された新しいメタデータを利用するために必要です。

重要： 検索索引の再作成は、Content Server インスタンスで管理するコンテンツ・アイテムの数によっては、非常に時間のかかるプロセスになる場合があります。そのため、再作成は Content Server の使用がオフピークである時間（通常は夜間または週末）に実行することをお勧めします。

リリース 7.2 以下で作成された Web サイトをアップグレードする予定がある場合は（[第7章「Web サイトのアップグレード」](#)を参照）、アップグレード時にコンテンツ・サーバー索引を再作成する必要があります。このため、索引の再作成を繰り返さずにすむように、サイトのアップグレードが完了してからこの手順を行うことをお勧めします。

索引の再作成の詳細は、Content Server 管理のドキュメントを参照してください。

2.6 Web サーバーの再起動

Site Studio を設定したら Web サーバーを再起動してください。再起動しないと、Site Studio のすべての Web サイトにアクセスできなくなります。

デザイナーのインストール

Site Studio デザイナは、ユーザーが Web サイトを設計、作成および管理できる開発環境を提供するアプリケーションです。

この項の内容は次のとおりです。

- 3-2 ページの「システム要件」
- 3-2 ページの「デザイナーのインストール」
- 3-2 ページの「デザイナーの起動」

3.1 システム要件

Site Studio デザイナ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 2000、Windows XP または Windows Vista オペレーティング・システム。
- Site Studio コンポーネントを実行しているコンテンツ・サーバーへのアクセス。
- Microsoft Internet Explorer 5.5 以上。(作成した Web ページの表示には、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上を使用できます。)
- 800 × 600 以上の VGA ディスプレイ。推奨: 256 色以上のカラー・ディスプレイ。

3.2 デザイナのインストール

Site Studio デザイナをインストールするにはコンピュータの管理権限が必要です。

Site Studio デザイナ・アプリケーションをインストールするには、次のようにします。

1. Web サイトの作成と管理に使用するコンピュータで、**Site Studio** ソフトウェア・ディストリビューション・パッケージを開きます。
2. **Designer** フォルダを開きます。
3. **Setup.exe** をダブルクリックしてから、画面上の指示に従います。

注意: Site Studio をアップグレードするときは、デザイナー・アプリケーションによって以前のバージョンが同時にインストールされます。(以前のバージョンは削除されません。)

3.3 デザイナの起動

Site Studio デザイナ・ソフトウェアをインストールしたら、「スタート」ボタンから「プログラム」→「**Oracle Universal Content Management**」→「**Site Studio 10gR3**」→「**Site Studio Designer**」の順に選択して、アプリケーションを開くことができます。

デザイナーを最初に起動したときは、空のサイト作業領域が表示され、「**Site Connection Manager**」ダイアログ・ボックスがすでに開いています(最初の Web サイトへの接続を設定できます)。その後は、前回作業していた Web サイトが開きます(必要であればこの設定は変更できます)。

注意: Site Studio デザイナの使用方法の詳細は、『**Site Studio Designer Guide**』を参照してください。

コントリビュータの設定

Site Studio コントリビュータは、コントリビュータに、Site Studio Web サイトのコンテンツを追加および編集するインコンテキスト編集環境を提供するアプリケーションです。

この項の内容は次のとおりです。

- 4-2 ページの「システム要件」
- 4-2 ページの「コントリビュータについて」
- 4-2 ページの「コントリビュータの起動」

4.1 システム要件

Site Studio コントリビュータ・アプリケーションのシステム要件は次のとおりです。

- Internet Explorer 6.0 以上または Firefox 2.0 以上を実行可能なオペレーティング・システム (例: Microsoft Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Linux、Mac OS X)。
- Site Studio コンポーネントを実行しているコンテンツ・サーバーへのアクセス。
- Microsoft Internet Explorer 6.0 以上または Firefox 2.0 以上。作成した Web ページを表示するには、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上または Mozilla Firefox 1.0.7 以上が必要です。
- 800 × 600 以上の VGA ディスプレイ。推奨: 256 色以上のカラー・ディスプレイ。

4.2 コントリビュータについて

Site Studio コントリビュータには、Site Studio サイトの Web ページを編集するための多くのオプションが用意されています。コントリビュータ・インタフェースのルック・アンド・フィールは、ワード・プロセッシング・プログラムとよく似ています。テキスト、画像、表などを追加および編集できます。

コントリビューション領域でコンテキスト (特に、コントリビュータ・データファイル) を編集すると、コントリビュータ・アプリケーションが自動的に開きます。このため、コントリビュータを単独でインストールする必要はありません。ほとんどのアプリケーションのように、実際にコントリビュータそのものを (デスクトップ、スタート・メニューなどから) 開きません。

コントリビューション・モードでは、コントリビューション画像 (図 4-1) を使用するとコントリビュータが開き、編集可能なフォームで Web ページのコンテンツにアクセスできます。

4.3 コントリビュータの起動

コントリビュータを開くには、まずコントリビューション領域を含む Web ページを参照します。(Web サイトのデザイナーは、コントリビュータに URL を送信するなどして、このページにアクセスするように指示します。) 次に、キーボードでショートカットを使用してコントリビューション・モードに切り替えます。デフォルトは、[Ctrl]+[Shift]+[F5] です ([Ctrl]、[Shift]、[F5] キーを同時に押します)。

コントリビュータとしてサイトにログオンするために、ログイン資格証明の入力を求められる場合があります。ログインするとコントリビューション・モードでページが表示され、Web ページの編集可能領域ごとに、複数のコントリビューション画像 (図 4-1) が表示されます。

図 4-1 コントリビューション画像



ここでコントリビュータ機能にアクセスできます。コントリビュータ画像内の編集アイコン (鉛筆付き) をクリックするか、この画像内のドキュメント・アイコンをクリックして編集する領域の横にあるコントリビューション画像内の「Edit」を選択することができます。

注意: コントリビュータが開くと、Web ブラウザは一時的に使用できなくなります。コントリビュータを閉じると、Web ブラウザに戻ることができます。

Site Studio コントリビュータの使用の詳細は、『Site Studio Contributor Guide』を参照してください。

5

考慮事項のインストール

この項は、次のインストールの考慮事項で構成されています。

- 5-2 ページの「[Site Studio メタデータ・フィールド](#)」
- 5-4 ページの「[コントリビュータのデフォルト・ショートカット・キーの変更](#)」
- 5-4 ページの「[消費サーバーのアクセス禁止](#)」

5.1 Site Studio メタデータ・フィールド

Site Studio コンポーネントをインストールすると、次の 4 つのメタデータ・フィールドがコンテンツ・サーバーに追加されます。

- 5-2 ページの「[Websites](#)」
- 5-2 ページの「[Website Section](#)」
- 5-3 ページの「[Website Object Type](#)」
- 5-3 ページの「[Exclude From Lists](#)」

5.1.1 Websites

Websites メタデータ（実際の名前は xWebsites）には、コンテンツ・サーバーの特定のファイルが所属する Web サイトのリストが含まれます。これらのファイルは、レイアウト・ページ、コントリビュータ・データファイル、ネイティブ・ドキュメント、スクリプトなどです。各 Web サイトには独自の ID があります。新しいコンテンツを Web サイトに追加するたびに、コンテンツのこのメタデータ・フィールドにその Web サイト ID が自動的に追加されます。

Websites メタデータは、動的リスト表示と検索が正常に機能するために必要です。このメタデータを使用すると、特定のファイルが関連付けられているすべての Web サイトを簡単に表示することもできます。

Websites メタデータは、コンテンツの再利用に対応するように導入されました。WebsiteID メタデータ（以前のバージョンの Site Studio フラグメントのサポートを提供する廃止予定フィールド）にかわるものです。以前のバージョンの Site Studio をアップグレードするときは、コンテンツの再利用を予定していない場合でも、現在 WebsiteID 値を使用しているフラグメントをカスタマイズする必要があります。詳細は、7-8 ページの「[その他の手順の手動実行](#)」を参照してください。

5.1.2 Website Section

Website Section メタデータ（実際の名前は xWebsiteSection）は、新しい Site Studio コンポーネントをサーバーにインストールすると自動的に値が移入されます。Website Section は、Web サイトのどこにドキュメントが格納されるかを示します（ターゲット・セクションが元のハイパーリンクで明示的に指定されない場合）。

Web サイトの既存コンテンツ（以前のバージョンの Site Studio で作成）では、Website Section の値はコレクション ID の値から導出されます。（コレクション ID は、Site Studio では使用されなくなった Folders コンポーネントに含まれていました。）これらはすべて、サイトをアップグレードしたときに自動的に処理されます。詳細は、7-3 ページの「[1 つのコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード](#)」を参照してください。

サイトのアップグレードが完了したら、フォルダのかわりに Website Section の使用を開始できます。継続してフォルダを使用する場合は、7-12 ページの「[フォルダへの Website Section の割当て](#)」の手順を参照してください。

5.1.3 Website Object Type

Website Object Type メタデータ（実際の名前は xWebsiteObjectType）は、コンテンツ・サーバーで Site Studio コンポーネントを有効にすると自動的に追加されます。各メタデータ値は、Site Studio で使用できるファイルのタイプを表します。これらのファイル・タイプの詳細は、『Site Studio Designer Guide』で説明しています。

このメタデータの値は次のとおりです。

- Data File
- Layout File
- Native Document
- Fragment
- Image
- Script
- Stylesheet
- Project
- Custom Element Form
- Manager Settings
- Properties Form
- Validation Script
- Other

5.1.4 Exclude From Lists

Exclude From Lists メタデータ（実際の名前は xDontShowInListsforWebsites）は Web サイトのリストです。これは、コントリビュータがユーザー・インタフェースを介して、コントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメントを Web サイト上の動的リストに表示しないことを指定したリストです。

コントリビュータがファイルを動的リストから除外すると、その Web サイトの ID がこの値に追加されず。後からコントリビュータが Web サイトの動的リストにそのコンテンツを再び含めると、Web サイト ID がこのメタデータ・フィールドから削除されて、コンテンツは再び動的リストの対象になります。

注意： 特定のデータファイルまたはネイティブ・ドキュメントについて Web サイトの値がこのメタデータ・フィールドに含まれる場合、そのコンテンツはサイトのどのリストにも表示されません。ただし、サイトの検索結果には表示されます。

5.2 コントリビュータのデフォルト・ショートカット・キーの変更

「Contributor」モードに切り替えるデフォルトのショートカット・キー ([Ctrl]+[Shift]+[F5]) を変更できます。このためには、Site Studio がインストールされているコンテンツ・サーバーの custom ディレクトリへのアクセス権が必要です。この値を変更した場合はサイトのデザイナーとコントリビュータに通知してください。

デフォルトのショートカット・キーを変更するには、次のようにします。

1. 次のディレクトリを参照して移動します ([CS_Dir] はコンテンツ・サーバーのインストール場所)。

```
[CS_Dir]¥custom¥SiteStudio¥publish¥resources¥wcm¥sitestudio¥
```

2. `wcm.toggle.js` をテキスト・エディタで開きます。
3. 機能 OnKeyDown を検索します。
4. `WCM.CONTRIBUTOR.Toggle` をコールするために別のショートカット・キーを使用するように、この機能の実装を変更します。

この機能は仮想キー・コードを使用して、ユーザーが入力したキーの組合せを判別します。デフォルト値は、[Ctrl]+[Shift]+[F5] です。[F5] キーは仮想キー・コードの 116 (16 進数の 0x74) です。他の一般的なファンクション・キーのコードは、F1 から F12 がそれぞれ 112 (0x70) から 123 (0x7B) になります。

5. `wcm.toggle.js` を保存して閉じます。

注意： 次に Site Studio をアップグレードするとき、またはパッチをインストールするときに、場合によっては、ショートカット・キーの設定を維持するためにこの手順を再び実行する必要があります。

注意： 仮想キー・コードがオペレーティング・システム間で異なるため、コントリビュータにより様々なオペレーティング・システムが使用される可能性がある場合、キー操作を判別するために使用されるキー・コードには特別な考慮事項が必要となります。

5.3 消費サーバーのアクセス禁止

コントリビュータは、ショートカット・キーを使用して「Contributor」モードに切り替え、投稿アイコンをクリックしてコントリビュータを開くと、Web サイトのコンテンツにアクセスできます。

Web サイトの構築に使用されるサーバーではそのようなアクセスが必要ですが、消費サーバー (実際の Web サイトの実行に使用されるサーバー) では望ましくありません。コントリビュータが消費サーバーにアクセスできないようにするには、次のサーバー構成変数を作成します。

```
DisableSiteStudioContribution=true
```

この変数が存在しない場合、または false に設定された場合は、コントリビュータのアクセスが許可されます。

Site Studio のアンインストール

この項の内容は次のとおりです。

- 6-2 ページの「[デザイナーのアンインストール](#)」
- 6-2 ページの「[Site Studio コンポーネントのアンインストール](#)」

6.1 デザイナのアンインストール

Site Studio デザイナをクライアント・マシンからアンインストールするには、Windows の「コントロールパネル」で「アプリケーションの追加と削除」を使用します。「現在インストールされているプログラム」リストの Site Studio のエントリは、「Oracle Universal Content Management - Site Studio Designer [version]」です。

6.2 Site Studio コンポーネントのアンインストール

Site Studio コンポーネントを無効化（またはアンインストール）することもできます。コンポーネントをアンインストールせずに無効にしておくと、後でまた有効化することができ、再インストールの必要がありません。

Site Studio コンポーネントを無効化またはアンインストールするには、次のようにします。

1. 新しいブラウザ・ウィンドウを開き、システム管理者（sysmanager ロール）として Content Server にログインします。
2. 「Administration Applets」ページに移動して、「Admin Server」リンクをクリックします。
3. 「Content Admin Server」ページで、Site Studio コンポーネントをアンインストールするコンテンツ・サーバー・インスタンスのボタンをクリックします。
コンテンツ・サーバー・インスタンスのステータス・ページが表示されます。
4. サーバー・インスタンスのオプション・リストで、「Component Manager」リンクをクリックします。
「Component Manager」ページが表示されます。
5. 「Enabled Components」の下で「SiteStudio」を選択します。
6. 「Disable」をクリックします。
7. コンテンツ・サーバーを再起動します。
8. コンポーネントをアンインストールする場合は、「Component Manager」ページに戻り、「Uninstall Component」リストで「SiteStudio」を選択して、「Uninstall」をクリックします。その後、コンテンツ・サーバーを再起動します。

Web サイトのアップグレード

この項の内容は次のとおりです。

- 7-2 ページの「はじめに」
- 7-2 ページの「自動アップグレードの処理内容」
- 7-3 ページの「コンテンツ・サーバーのアップグレード」
- 7-8 ページの「その他の手順の手動実行」

7.1 はじめに

リリース 7.2 以下からアップグレードしている場合は、Site Studio と、Site Studio で作成した Web サイトの両方をアップグレードする必要があります。Web サイトをアップグレードする必要があるのは、現行リリースにも継続している次の機能が Site Studio リリース 7.5 で導入されたためです。

リリース 7.5 以上 (10gR3 を含む) で、アーキテクチャの主要な変更は次のとおりです。

- サイト階層がプロジェクト・ファイルに格納され、フォルダを利用しないようになりました。結果として、Content Server の Folders 機能は必要なくなりました。
- Web サイトの URL が、SS_GET_PAGE サービスを表示する CGI ベース・アドレスではなく、論理パスと接尾辞として表示されます。結果として、わかりやすいパスベース URL が表示されます。
- レイアウト・ページで <base> タグが使用されなくなりました。このため、base タグを利用するハイパーリンクと参照を変更する必要があります。
- siteId とルート・ノード ID は同じ意味ではなくなりました。

これらおよびその他の新機能の詳細は、『Site Studio Designer Guide』を参照してください。

7.2 自動アップグレードの処理内容

Site Studio と Web サイトをアップグレードすると、次の処理が自動的に実行されます。

処理	説明
フォルダベース・サイトからプロジェクトベース・サイトへのアップグレード	フォルダ構造の既存の階層が、プロジェクト・ファイル内に複製されます。ルートの dCollectionName は siteLabel、ルートの dCollectionID は siteId として使用され、originalCollectionID プロジェクト属性が設定され、サイト・タイプがルート・セクションからプロジェクトに移されます。
新しいサイトのカスタム・セクション・プロパティの更新	タイプが siteid と url であるカスタム・セクション・プロパティが更新されます (必要な場合は、わかりやすい URL が追加されます)。
レイアウト・ページのフラグメント・インスタンス・パラメータの更新	タイプが managedurl と url であるパラメータが更新されます。
メタデータの移入	「Create Project Files」オプションが有効になっている場合は、xWebsiteSection 値が移入されます (xCollectionID から導出)。
レイアウト・ページとデータファイルのリンクの更新	「Upgrade Layouts」オプションと「Upgrade Data Files」オプションが有効になっている場合、レイアウト・ページとコンピュータ・データファイルの weblayout リンクが、HttpRelativeWebRoot トークンを含むように更新されます。オプションとして、javascript リンクも更新されます。
ナビゲーションの更新	Web サイトのナビゲーション・ファイルが再生成されます。

注意: カスタム要素は自動的にアップグレードできません。詳細は、7-11 ページの「[カスタム要素の更新](#)」を参照してください。

7.3 コンテンツ・サーバーのアップグレード

サイトのアップグレードでは、使用している各コンテンツ・サーバーの Site Studio コンポーネントをまずアップグレードし、次にコンテンツ・サーバーに格納されている Web サイトをアップグレードします。

- 7-3 ページの「[1つのコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード](#)」
- 7-3 ページの「[複数のコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード](#)」
- 7-5 ページの「[完全アップグレードの実行](#)」
- 7-7 ページの「[最小アップグレードの実行](#)」

Folders コンポーネントは Site Studio リリース 7.5 以上では使用されませんが、Web サイトのアップグレード時にはフォルダを維持する必要があります。これは、各サイトをフォルダベースの階層からプロジェクトベースの階層に移行できるようにするためです。

その後、Folders コンポーネントを無効にすることができます（フォルダを利用する Check Out and Open コンポーネントを使用しない場合）。フォルダの使用を継続する場合は、適切なメタデータを使用してフォルダを構成する必要があります（7-12 ページの「[フォルダへの Website Section の割当て](#)」を参照）。

注意： アップグレードの手順を実行すると、サーバーのすべての Web サイトがアップグレードされます。選択したサイトのみをアップグレードする場合は、その他のサイトのコピーを別のサーバーに作成する必要があります。

7.3.1 1つのコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード

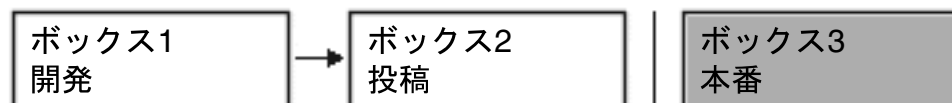
Web サイトが1つのコンテンツ・サーバーに格納されている場合は、次のようにアップグレードを行います。

1. 新しい Site Studio コンポーネントをインストールします（事前に古いコンポーネントをアンインストールします）。詳細は、[第2章「Site Studio コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。
2. コンテンツ・サーバーで完全アップグレードを実行します。詳細は、7-5 ページの「[完全アップグレードの実行](#)」を参照してください。
3. 自動アップグレードで処理されないその他の手順を手動で実行します。詳細は、7-8 ページの「[その他の手順の手動実行](#)」を参照してください。

7.3.2 複数のコンテンツ・サーバー・インスタンスでのサイトのアップグレード

複数のコンテンツ・サーバーにサイトがある場合があります。それぞれ、開発サーバー、投稿サーバー、本番サーバーなど様々な目的に利用されます。

図 7-1 複数のコンテンツ・サーバー・インスタンス



各サーバー（ソース・サーバー）のコンテンツは、アーカイバおよびレプリケータを使用して次のサーバー（ターゲット・サーバー）にコピーされます。このため、レプリケーションの問題が発生しないように、各サーバーのサイトを注意深く計画してアップグレードすることが重要です。

コンテンツ・サーバーの最初の 2 つのインスタンス

- コンテンツ・サーバー間のレプリケーションを停止します。
- 新しい Site Studio コンポーネントをインストールします。詳細は、第 2 章「Site Studio コンポーネントのインストール」を参照してください。

コンテンツ・サーバーのソース・インスタンス

- サイトの完全アップグレードを実行します。詳細は、7-5 ページの「完全アップグレードの実行」を参照してください。
- 自動アップグレードで処理されないその他の手順を手動で実行します。詳細は、7-8 ページの「その他の手順の手動実行」を参照してください。

コンテンツ・サーバーのターゲット・インスタンス

- サイトの最小アップグレードを実行します。詳細は、7-7 ページの「最小アップグレードの実行」を参照してください。

コンテンツ・サーバーの両方のインスタンス

- コンテンツ・サーバー間のレプリケーションを再開します。

前述したように、コンテンツ・サーバーのすべてのインスタンスに新しいコンポーネントをインストールして、Web サイトをアップグレードすると、サイトのレプリケーションを再開できます。

Site Studio のレプリケーション機能を使用できます（『Site Studio Designer Guide』を参照）。あるいは、アーカイバおよびレプリケータを使用しており、継続して使用する予定がある場合は、アーカイブ問合せを変更して Site Studio プロジェクト・ファイルを組み合わせることで可能になります。

次のターゲット・コンテンツ・サーバー（レプリケーションの下流）

- ソース・コンテンツ・サーバーとターゲット・コンテンツ・サーバー間のレプリケーションを停止します。

注意： この場合、ソース・サーバー（ボックス 2）は前の手順のターゲット・サーバーであり、ターゲット・サーバー（ボックス 3）はレプリケーション・プロセスの下流にある次のサーバーです。

- 新しい Site Studio コンポーネントをインストールします。詳細は、第 2 章「Site Studio コンポーネントのインストール」を参照してください。
- サイトの最小アップグレードを実行します。詳細は、7-7 ページの「最小アップグレードの実行」を参照してください。
- ソース・コンテンツ・サーバーとターゲット・コンテンツ・サーバー間のレプリケーションを再開します。

レプリケーション・プロセスの下流にあるコンテンツ・サーバーの各ターゲット・インスタンスでこの最後の手順を繰り返します。

7.3.3 完全アップグレードの実行

コンテンツ・サーバーの完全アップグレードは、シングルサーバー設定が必要です。複数サーバー設定のソース・サーバーでも必要です。(複数サーバー設定のその他すべてのサーバーでは最小アップグレードが必要です。)

サイトをアップグレードすると、**Site Studio** によって既存のフォルダベース・サイトがプロジェクトベース・サイトに変更されます。このとき、管理されるアイテムとしてプロジェクト・ファイルがコンテンツ・サーバーに作成されます。このため、各 **Web** サイトを表すプロジェクト・ファイルに割り当てるメタデータを指定する必要があります。

アップグレード・プロセスにおいて、変更されたコンテンツの索引付けをコンテンツ・サーバーが実行しようとしていますが、この処理は多くのリソースを消費し、時間が長くなる場合があります。アップグレード・プロセスを開始する前に、一時的に自動索引付けを無効にすることをお勧めします。終了したら再び有効にしてください。(詳細は、**Content Server** 管理のドキュメントを参照してください。)

完全アップグレードを開始する前に、新しい **Site Studio** コンポーネントをサーバーにインストールして有効しておく必要があります。詳細は、[第2章「Site Studio コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

完全アップグレードを実行するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログオンして、「**Administration**」ページを開き、「**Site Studio Administration**」ページを開きます。
2. 「**Set Default Project Document Information**」をクリックします。

この画面 ([図 7-2](#)) で、**Site Studio** で作成する新しいプロジェクトにデフォルトのメタデータを割り当てます。

図 7-2 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定画面

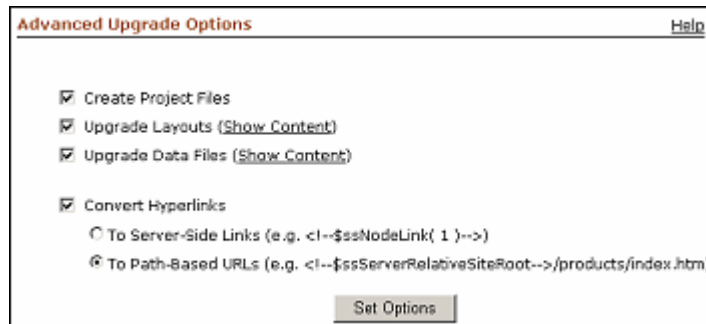
3. メタデータの値を選択したら、「**Update**」をクリックします。

これで「**Site Studio Administration**」ページが再び表示されます。ここでアップグレード・プロセスを開始できます。

4. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。

5. 「Go to Web Sites Update Page」をクリックします。(このオプションが表示されるのは、古い Web サイトが検出された場合のみです。)
6. 「Advanced Options」をクリックして、サイトのアップグレード・オプションを指定します。

図 7-3 拡張アップグレード・オプション画面



7. 完全アップグレードの場合は次のように選択します。
 - 「Create Project files」を選択します。
 - 「Upgrade Layouts」を選択します。
 - 「Upgrade Data Files」を選択します。
 - 「Convert Hyperlinks」を選択して、次のいずれかのリンク形式を選択します。
 - To Server-Side Links:** サーバー側スクリプトを使用するターゲットの場所のコード化された ID が含まれるリンク。
 - To Path-Based URLs:** ターゲットの場所へのフルパスが含まれるリンク。
8. 「Set Options」をクリックして「Upgrade Legacy Web Sites」ページに戻ります。
9. 「Start Upgrade」をクリックします。

このページには、アップグレードする必要がある個々のファイルが表示されます。アップグレード・プロセスの完了を知らせるメッセージが表示されるまで待機してください。

注意： サイトのアップグレードでは、サイト階層と多くのリンクが自動的に更新されます。また、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューにサイトが表示されるようになります。

7.3.4 最小アップグレードの実行

最小アップグレードは複数サーバー設定で必要です。すべてのターゲット・サーバー（Web サイトのレプリケート先のサーバー）に適用されます。

最小アップグレードを開始する前に、新しい Site Studio コンポーネントをサーバーにインストールして有効にしておく必要があります。詳細は、第 2 章「Site Studio コンポーネントのインストール」を参照してください。

最小アップグレードを実行するには、次のようにします。

1. 管理者としてコンテンツ・サーバーにログオンして、「Administration」ページを開き、「Site Studio Administration」ページを開きます。

2. 「Set Default Project Document Information」をクリックします。

Site Studio (図 7-2) で作成する新しいプロジェクトにデフォルトのメタデータを割り当てるための画面が表示されます。

3. メタデータの値の選択が終了したら、「Update」をクリックします。

これで「Site Studio Administration」ページが再び表示されます。ここでアップグレード・プロセスを開始できます。

4. 「Manage Web Sites」をクリックします。

5. 「Go to Web Sites Update Page」をクリックします。（このオプションが表示されるのは、古い Web サイトが検出された場合のみです。）

6. 「Advanced Options」をクリックして、サイトのアップグレード・オプションを指定します (図 7-3)。

7. 「Create Project files」を選択します。

注意：これでプロジェクト・ファイルがアップグレードされ、Website Section メタデータに値が移入されます。

8. 「Set Options」をクリックして「Upgrade Legacy Web Sites」ページに戻ります。

9. 「Start Upgrade」をクリックします。

アップグレード・プロセスの完了を知らせるメッセージが表示されるまで待機してください。

これで、コンテンツ・サーバーの「Websites」メニューにサイトが表示されるようになります。

7.4 その他の手順の手動実行

Web サイトのアップグレードが終了したら、次の手順を手動で実行する必要があります。

- 7-8 ページの「[サイト・ナビゲーションの更新](#)」
- 7-8 ページの「[コンテンツ・サーバー索引の再作成](#)」
- 7-8 ページの「[カスタム・フラグメントの更新](#)」
- 7-11 ページの「[カスタム要素の更新](#)」
- 7-12 ページの「[フォルダへの Website Section の割当て](#)」
- 7-12 ページの「[JSP コードの更新](#)」

7.4.1 サイト・ナビゲーションの更新

Site Studio の最新バージョンにアップグレードした後で、サイトのナビゲーション・ファイルを更新する必要があります。これは、デザイナー（「[Update Navigation](#)」ボタンを使用する）または「[Site Studio Administration](#)」ページ（特に「[Manage Web Sites](#)」ページ）で行うことができます。この手順は、コントリビュータがサイトで正常に機能するために必要です。

7.4.2 コンテンツ・サーバー索引の再作成

リリース 7.2 以下から Web サイトをアップグレードした後には、コンテンツ・サーバーの索引を再作成する必要があります。サイトのフォルダに存在するすべてのコンテンツ・アイテムに対する xWebsiteSection メタデータ・フィールドが Site Studio によって更新されるため、この手順が必要になります。

警告： 検索索引の再作成は、Content Server インスタンスで管理するコンテンツ・アイテムの数によっては、非常に時間のかかるプロセスになる場合があります。そのため、再作成は Content Server の使用がオフピークである時間（通常は夜間または週末）に実行することをお勧めします。

索引の再作成の詳細は、Content Server 管理のドキュメントを参照してください。

7.4.3 カスタム・フラグメントの更新

サイトをアップグレードした後で実行する必要がある手動更新のほとんどに、カスタム・フラグメントの変更が伴います。Site Studio に含まれていたフラグメントを現在使用している場合は、この作業は必要ありません。最新バージョンの製品に含まれる各フラグメントは更新されているためです。

多くの場合、組織固有の目的を満たすために、フラグメントをカスタマイズしているか、新しいフラグメントを導入しています。この後の3つの項では、最新バージョンで機能するようにフラグメントを処理する方法を説明します。

7.4.3.1 <base> タグに依存するリンクの変更

weblayout ディレクトリを指す <base> タグは使用されなくなりました。サイトのアップグレードの際に、レイアウト・ページとデータファイルの必要なコードは Site Studio によって更新されますが、カスタム・フラグメントとスクリプトではこの手順を手動で実行する必要があります。

<base> タグの URL と相対的なリンクを手動でコーディングしなおします。また、かわりにサーバー側変数 `HttpRelativeWebRoot` を使用します。

例

次のような画像へのリンクがある場合：

```

```

次のように置き換えます。

```

```

7.4.3.2 SS_GET_PAGE の JavaScript による従来のリンクの変更

既存のフラグメントで SS_GET_PAGE の javascript:link または javascript:nodelink 形式のハイパーリンクが使用されている場合は、パスベースの URL に変更してその利点を活用できます。(詳細は、『Site Studio Designer Guide』を参照してください。)

例

次のようなリンクがある場合：

```
<a href="javascript:nodelink(42);">link</a>
```

次のように置き換えます。

```
<a href="<!--ssServerRelativeSiteRoot-->products/servers/index.htm">link</a>
```

7.4.3.3 GET_SEARCH_RESULTS の更新

GET_SEARCH_RESULTS サービスを使用していたフラグメントは継続して機能しますが、新しい SS_GET_SEARCH_RESULTS サービスを使用するようにアップグレードしないかぎり、新しい機能（リリース 7.5 以上）の利点を活用できません。

新しいサービスを使用すると多くの利点があります。

- **limitscope ロジック**（現在はサービスによって提供され、フラグメントでは必要ない）： 現行 Web サイト内の項目のみに検索結果を限定します。
- **dontshowinlists ロジック**（現在はサービスによって提供され、フラグメントでは必要ない）： 投稿者がリストから除外していない項目のみに検索結果を限定します。
- **ssUrl**: この新しい列によって、検索結果の各行にわかりやすい URL が提供されます。

通常、GET_SEARCH_RESULTS サービスを使用するフラグメントは、動的リスト・フラグメントと検索結果ナビゲーション・フラグメントです。必要な更新は、アップグレード元の Site Studio 製品のバージョンによって異なります。

- Site Studio リリース 6.5 を使用しており、そのリリースを使用して動的リスト・フラグメントまたは検索結果フラグメントをカスタマイズしていた場合（たとえば、Site Studio フラグメントをコピーして、カスタム・コードを追加するなど）、古い xWebsiteID メタデータ・フィールドを使用して limitscope ロジックを実行するコードが使用されることとなります。
- Site Studio リリース 7.2 を使用しており、そのリリースを使用して動的リスト・フラグメントまたは検索結果フラグメントをカスタマイズしていた場合（たとえば、Site Studio フラグメントをコピーして、カスタム・コードを追加するなど）、新しい xWebsiteID メタデータ・フィールドを使用して limitscope ロジックを実行するコードが使用されることとなります。さらに、新しい xDontShowInListsForWebsites メタデータ・フィールドを使用して dontshowinlists ロジックを実行するコードも使用されます。

このいずれの場合も、古い limitscope ロジックと dontshowinlists ロジックを削除して、新しい SS_GET_SEARCH_RESULTS サービス（同じ機能を内部的に提供する）を使用するために、フラグメントを更新する必要があります。

例

Site Studio 6.5 では、Standard Dynamic List フラグメントに、ssLimitScope パラメータに関する次のコードが含まれます。これを削除する必要があります。

```
<!--$QueryText=eval(ssQueryText)-->
<!--$if ssLimitScope like "true"-->
  <!--$if strEquals(QueryText, '')-->
    <!--$QueryText='xWebSiteID=' & siteId-->
  <!--$else-->
    <!--$QueryText=(' & QueryText & ') and (xWebSiteID=' & siteId & ')!-->
  <!--$endif-->
<!--$endif-->
```

Site Studio 7.2 では、Standard Dynamic List フラグメントに、ssLimitScope パラメータに関する次のコードが含まれます。これを削除する必要があります。

```
<!--$QueryText=eval(ssQueryText)-->
<!--$if ssLimitScope like "true"-->
  <!--$if strEquals(QueryText, '')-->
    <!--$QueryText='xWebsites &lt;contains&gt; ' & siteId-->
  <!--$else-->
    <!--$QueryText=(' & QueryText & ') and (xWebsites &lt;contains&gt;' & siteId & ')!-->
  <!--$endif-->
<!--$endif-->

<!--$if strEquals(QueryText, '')-->
  <!--$QueryText= 'not (xDontShowInListsForWebsites &lt;contains&gt; ' & siteId & ')!-->
<!--$else-->
  <!--$QueryText=(' & QueryText & ') and not (xDontShowInListsForWebsites &lt;contains&gt; ' & siteId & ')!-->
<!--$endif-->
```

フラグメントから古い limitscope ロジックを削除したら、SS_GET_SEARCH_RESULTS を使用するよう GET_SEARCH_RESULTS サービス・コールを変更します。ただし、SS_GET_SEARCH_RESULTS サービスを起動する前に、次のパラメータの値を設定する必要があります。

パラメータ	説明
ssLimitScope	SS_GET_SEARCH_RESULTS サービスによって limitscope ロジックを適用する必要があることを指定します。通常、この true または false の値はフラグメントのパラメータ値によって指定されます。
ssDontShowInLists	SS_GET_SEARCH_RESULTS サービスによって dontshowinlists ロジックを適用する必要があることを指定します。通常、この true または false の値はすべてのフラグメントで true に設定されます。
ssTargetNodeId	検索結果の表示に使用されるノード ID を指定します。ssTargetSiteId は、コンテンツ・サーバー上の他の Web サイトへのリンクを生成するためにも使用できます。ssTargetSiteId が指定されない場合、生成されるリンクでは、リンク元と同じサイトであるとみなされます。
ssTargetSiteId	検索結果の表示に使用されるサイト ID を指定します。ssTargetNodeId パラメータは、ターゲット・ノードを完全修飾するためにも使用する必要があります。
ssSourceNodeId	リンクを含む現行ページのノード ID を指定します。
ssSourceSiteId	リンクを含む現行ページのサイト ID を指定します。
ssWebsiteObjectType	検索結果を特定の Website Object Type に限定するように指定します。通常、この値は空にしておきます。

パラメータ	説明
ssUserSearchText	全文検索を実行するために任意のユーザー・テキストを指定します。通常、これは Search Results フラグメントのみに適用されます。値は、Search Box フラグメントに値を入力するコンシューマが指定します。

SS_GET_SEARCH_RESULTS サービス・コールの結果をループ処理するとき、通常は、結果セットの新しい ssUrl 列を使用して、そのアイテムに対するハイパーリンクを作成します。これで、暗号化された ID ベースの URL ではなく、フルパスベースの URL が使用されるようになります。

また、これらの URL には、リンク元のロケーションを表すパラメータを付ける必要があります。これにより、無効なリンクに対して適切にエラー・ページを生成することができます。

次のパラメータを URL に追加してください。

パラメータ	説明
ssSourceNodeId	ソース・ノード ID を宣言します。ssTargetNodeId と xWebsiteSection の両方が空の場合に、わかりやすい URL を生成するために使用されます。
ssSourceSiteId	ソース・サイト ID を宣言します。これにより、ターゲット・ページが見つからない場合に、エラー・ページを表示することができます。

Idoc スクリプトを使用する簡単な例を次に示します。

```
<!-- New params for SS_GET_SEARCH_RESULTS -->
<!--$ssLimitScope="true"-->
<!--$ssDontShowInLists="true"-->
<!--$ssTargetNodeId=""-->
<!--$ssTargetSiteId=""-->
<!--$ssSourceNodeId=nodeId-->
<!--$ssSourceSiteId=siteId-->
<!--$ssWebsiteObjectType=""-->
<!--$ssUserText=""-->

<!--$executeService("SS_GET_SEARCH_RESULTS")-->

<!--$loop SearchResults-->
  <a href="<!--$ssUrl-->?ssSourceSiteId=<!--$siteId-->&ssSourceNodeId= <!--nodeId-->">
    <!--$dDocTitle-->
  </a><br><br>
<!--$endloop-->
```

詳細は、Site Studio 製品で提供される動的リストおよび検索結果のフラグメントを参照してください。

7.4.4 カスタム要素の更新

Site Studio で以前に使用したカスタム要素フォームは、Site Studio 10gR3 (10.1.3.3.3) と互換性がありません。手動でアップグレードし、再度オーサリングする必要があります。下位互換性を保持しない主な理由は、Site Studio が以前に Internet Explorer 独自仕様である「window.external」機能に依存していたためです。ブラウザに依存しない新しいコントリビュータ・アプリケーションにより、「window.external」機能は Site Studio から削除されました。詳細は、『Site Studio Technical Reference Guide』を参照してください。

7.4.5 フォルダへの Website Section の割当て

Site Studio では、サイト階層の設定や管理に Content Server のフォルダ (Folders コンポーネント) を使用することはなくなりました。Site Studio 7.2 以下から Web サイトをアップグレードした場合、フォルダに含まれるコンテンツに新しいメタデータ値 (Website Section) が割り当てられて、コンテンツがサイトの一部として最新バージョンで認識されます。

アップグレード後にフォルダに追加した新しいコンテンツには、このメタデータ値は割り当てられません。このため、コンテンツをサイトに追加するためにフォルダの使用を継続する場合は、各フォルダに Website Section の値を割り当てる必要があります。

Website Section の値を割り当てるには、次のようにします。

1. 更新するフォルダの WRITE アクセス権を持つユーザーとしてコンテンツ・サーバーにログオンします。
2. 「Browse Content」を選択し、次に「Websites」を選択します。
3. 更新する Web サイトを選択します。
4. 変更する特定のフォルダについて「Folder Information」をクリックします。
5. 「Update」アクションを選択します。
6. 「Website Section」について「Browse」をクリックします。
7. 対応する「Website Section」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。
9. 「Update」をクリックします。
10. Site Studio で「Website Section」にマップするフォルダごとにこの手順を繰り返します。

7.4.6 JSP コードの更新

SiteStudio.SSNavigationBean オブジェクトおよび SiteStudio.SSNavigationNode オブジェクトに基づいて JSP コードを作成している場合は、これらのオブジェクトへの参照を変更する必要があります。次のように、すべて小文字で sitestudio とします。

- sitestudio.SSNavigationBean
- sitestudio.SSNavigationNode

索引

A

Active Server Pages, 2-4, 2-10
Apache, 2-4, 2-6
ASP, 2-4, 2-10
 サポート, 2-10

C

Check Out and Open, 1-2, 7-3
ClusterNodeAddress, 2-11
Component Manager, 2-2
Content Server
 ISAPI フィルタ, 2-4
 構成ファイル, 2-9
 索引, 2-12
 ドキュメント, 1-2
 フォルダ, 1-2
 要件, 1-2
Content Tracker, 1-2
 レポート, 1-2
CS10gR3CoreUpdate パッチ, 1-2
CS10gR3NativeUpdate パッチ, 1-2
CS752Update パッチ, 1-2

D

DBSearchContainsOpSupport
 コンポーネント, 1-3, 2-2, 2-8
Dynamic Converter, 1-2

E

Exclude From Lists
 メタデータ, 5-3

G

GET_SEARCH_RESULTS, 7-9, 7-10

H

HttpRelativeWebRoot, 7-8

I

IdcCommandUX
 コンポーネント, 2-10
IIS, 2-4, 2-5, 2-8, 2-10
ISAPI フィルタ, 2-4, 2-5
 IIS, 2-5
 インストーラ, 2-5
 チェック, 2-5

J

JavaServer Pages, 2-9
JPS
 コードの更新, 7-12
JSP, 2-4, 2-9
 サポート・ファイル, 2-9

S

Site Connection Manager, 3-2
Site Studio
 アップグレード, 2-2
 アンインストーラ, 2-2
 コントリビュータ, 7-11
 コンポーネント, 1-3, 7-3, 7-4, 7-5
 コンポーネントの zip ファイル, 2-3
Site Studio コンポーネント
 要件, 1-2
Site Studio のドキュメント, 1-4
SS_GET_PAGE, 7-9
SS_GET_SEARCH_RESULTS, 7-9, 7-10, 7-11
ssDontShowInLists, 7-10, 7-11
ssLimitScope, 7-10, 7-11
ssSourceNodeId, 7-10, 7-11
ssSourceSiteId, 7-10, 7-11
ssTargetNodeId, 7-10, 7-11
ssTargetSiteId, 7-10, 7-11
ssUrl, 7-9, 7-11
SSUrlMapPlugin
 コンポーネント, 2-4, 2-8
ssUserSearchText, 7-11
ssUserText, 7-11
ssWebsiteObjectType, 7-10, 7-11
Sun ONE, 2-4, 2-7

W

Website Object Type, 7-10
メタデータ, 5-3
Website Section
値, 5-2
Web サーバー
Apache, 2-4, 2-6
IIS, 2-4
Sun ONE, 2-4, 2-7
再起動, 2-12

X

xDontShowInListsForWebsites, 7-9
xDontShowInListsforWebsites, 5-3
xWebsiteID, 7-9
xWebsiteObjectType, 5-3
xWebsites, 5-2, 7-9
xWebsiteSection, 5-2, 7-8, 7-11

あ

アーカイバ / レプリケータ, 7-3, 7-4
アップグレード
完全, 7-3, 7-5
最小, 7-7
自動, 7-3, 7-4
アンインストール
デザイン, 6-2

か

カスタム・フラグメント, 7-8
カスタム・フラグメントの更新, 7-8
カスタム要素
更新, 7-11
完全アップグレード, 7-3, 7-5

こ

コンテンツ・サーバー
アップグレード, 7-3
索引, 7-8
複数のインスタンス, 7-3
コンテンツ・タイプ, 2-3
コントリビューション画像, 4-2
コントリビューション・モード, 4-2
コントリビューション領域, 4-2
編集, 4-2
コントリビュータ, 4-1, 7-8, 7-11
インストール, 4-2
機能, 4-2
ショートカット・キー, 5-4
編集, 4-2
要件, 1-3, 4-2
コントリビュータ・データファイル, 4-2, 5-3
コンポーネント, 7-4
Check Out and Open, 1-2, 7-3
Component Manager, 2-2
DBSearchContainsOpSupport, 1-3, 2-2, 2-8
IdcCommandUX, 2-10
Site Studio, 2-9, 7-3, 7-4, 7-5

Site Studio zip ファイル, 2-3
SSUrlMapPlugin, 2-4, 2-8
zip ファイル, 2-10
アップグレード, 7-3
アンインストール, 6-2
インストール, 2-3
フォルダ, 7-3, 7-12
無効化, 6-2
有効化, 2-3

さ

最小アップグレード, 7-7
サイト・ナビゲーション
更新, 7-8
サイト・ナビゲーションの更新, 7-8
索引
コンテンツ・サーバー, 2-12
再作成, 7-8
索引付け, 1-2
サンプル・ファイル, 2-3

し

システム要件
コントリビュータ, 1-3
コンポーネント, 1-2
デザイン, 1-3
マネージャ, 1-3
自動アップグレード, 7-3, 7-4
消費サーバー
アクセス, 5-4
ショートカット・キー, 5-4

せ

全文検索, 1-2, 2-4
全文索引付け, 1-3

そ

ゾーン・フィールド, 2-4, 2-8
構成, 2-8

て

デザイン, 2-4, 3-1, 7-8
インストール, 3-2
要件, 1-3, 3-2
デフォルト・メタデータ, 2-6, 7-7

は

パッチ
CS10gR3CoreUpdate, 1-2
CS10gR3NativeUpdate, 1-2
CS752Update, 1-2
パラメータ, 7-10
パラメータ値, 7-10

ふ

フォルダ
コンポーネント, 7-3, 7-12
フラグメント, 2-3

ま

マネージャ
要件, 1-3

め

メタデータ, 2-6, 5-2, 5-3, 7-3, 7-5
Exclude From Lists, 5-3
Website Object Type, 5-3
Website Section, 5-2
Websites, 5-2
値, 5-3
デフォルト, 7-7
メタデータ値, 7-12
メタデータ・フィールド, 2-3, 2-4, 2-8, 5-2
新規, 2-3

よ

要件
Content Server, 1-2
コントリビュータ, 1-3, 4-2
コンポーネント, 1-2
デザイナー, 1-3, 3-2
マネージャ, 1-3

れ

レプリケーション, 7-4

ろ

ロジック
dontshowinlists, 7-9
limitscope, 7-9

